

富士プリント 連結経営重視策推進 —持株会社「フジブリグループ」設立 — 今期4期連続増収増益見込む—

小ロット・試作プリント配線板メーカー、富士プリント工業(株) (本社：東京都八王子市下恩方町315-11 TEL042-650-8181 代表者：荒井眞澄氏 資本金：9,980万円 従業員：61人) は、国内プリント配線板市場が縮小を続ける中で持続的な成長を実現するため、中国をはじめとした海外市場への進出や、M&Aによる電子機器開発事業への展開など、連結業績を重視した事業戦略を多方面から推進している。こうした事業戦略が奏効し、今2017年4月期連結業績が4期連続の増収営業増益で過去最高益を更新する見通しとなるなど順調に推移しているが、今後も事業拡大に向けた取り組みをさらに加速する方針。この一環として、グループ間の連携強化を図るため今年2月に持株会社「フジブリグループ(株)」を設立しており、M&Aについても当社グループへの利益面やシナジー面での効果が見込まれることを前提として積極的に実施するとしている。

当社グループの主要企業は、香港販売子会社の「富士回路科技(香港)有限公司(2003年設立)」、システム設計から精密板金加工による筐体製造まで各種電子機器の開発を手掛ける「(株)双明通信機製作所(東京都瑞穂町、2006年子会社化)」、多品種少量生産によるEMS(電子機器受託生産サービス)を展開する「フェイス(株)

(相模原市南区、2015年子会社化)」および当社本体の4社。これら4社に加え、香港の美邦企業などと共同で設立した中国合弁会社、四会富士電子科技有限公司(広東省四会市、2009年設立)や、中国現地通貨による決済を目的に設立した富士輝回路(深圳)有限公司(2014年設立)などを擁する。当社の最寄り連結業績は、「2014年4月期」の売上高が前期比56.2%増の16億4,500万円、営業利益が42.5%増の5,700万円、経常利益が12.9%減の5,200万円、当期純利益が2.5%減の4,400万円、「2015年4月期」の売上高が14.3%増の18億8,200万円、営業利益が40.8%増の8,100万円、経常利益が2.2倍の1億1,500万円、当期純利益が77.3%増の7,900万円。「2016年4月期」は詳細が明らかになっていないが、売上高20億円強、営業利益1億4,000万円、当期純利益1億4,000万円、当期純利益が77.3%増の7,900万円。「2016年4月期」は詳細が明らかになっていないが、売上高20億円強、営業利益1億4,000万円、当期純利益1億4,000万円、当期純利益が77.3%増の7,900万円。当社本体の売上高は、国内市場低迷の影響を受けて10億円前後で推移しているものの、中国メーカーへの委託生産による販売事業が好調に推移していることなどから、連結業績は右肩上がりの推移が続いている。

グループ各社が連結業績に寄与していることは企業別の2015年度業績(当社本体は2016年4月期、他は決算期が異なる)に示されており、「富士プリント工業」が売上高10億500万円(前期比2.4%減)、営業利益600万円、経常利益7,300万円、当期純利益△2,200万円、「双明通信機」が売上高2億6,600万円、営業利益700万円、

経常利益1,000万円、当期純利益700万円、「フェイス(6カ月間)」が売上高3億8,400万円、営業利益9,000万円、経常利益9,000万円、当期純利益6,600万円、「富士回路科技(香港)」が売上高4,300万円、営業利益35万円となっている。フェイスを子会社化したのは昨年7月だったことから、前年度は当社連結業績として計上されたのが6カ月分のみだったにもかかわらず、とりわけ利益面への寄与が大きかった。今期はフェイスの業績が1年分加わることから、4期連続の増収増益が確実な見通しとなっている。双明通信機の経営基盤も安定しており、当社グループに加わって2年目以降はリーマンショックの影響を受けた2009年を含め継続的に黒字を計上している。また、中国合弁会社の四会富士電子科技有限公司は、当社による出資比率が7.11%に過ぎないため連結業績への影響は限定されるが、順調に事業が拡大して年間売上高30億円規模、経常利益率14%の企業に成長している。これを受けて上場を視野に入れて検討している。

当社単独業績の損益項目をみると、売上高はほぼ横這いだったものの、政府が成長戦略の一環として設備投資の一括償却を可能にしていることを利用し、昨年導入したダイレクトイメージング装置の減価償却を一度に行ったことから、営業利益が大幅に減少して営業利益率はコンマ以下にとどまった。一方経常利益は、子会社からの配当金などによって営業外収支

が大幅入超となったことにより、経常利益率が7.3%に達した。この間の投資効果が顕在化したと指摘している。最終損益が赤字になったのは、新設した持株会社に当社の資産を移したことによるもので、グループ全体の損益への影響はない。

持株会社フジブリグループの設立は、グループ各社の連携を強化してシナジー効果を追求するとともに、経営環境急変による影響を緩和してグループ全体の経営基盤の安定化を図る狙い。従来は、当社がグループ各社の全株式を保有していたが、当社を含め全社が持株会社の傘下に入って対等な関係となることにより、グループとしての一体感を醸成しやすい環境を構築した。このため、従来の富士プリントのロゴマークに加え、フジブリグループ全体のロゴマークも策定した。また、従来の形態では、市場環境変化による影響を当社が受けるとグループ各社に影響を及ぼす可能性が高かったが、企業間の位置付けを並列化することで環境変化による影響を緩和しやすい体制とした。

また当社は、長期的に事業を継続するため経営者の世代交代に向けた準備を進めており、持株会社であるフジブリグループの社長には荒井社長の子息で当社常務取締役の荒井勇輝氏が就任した。来年夏をめどに荒井勇輝氏が当社本体の社長にも就任する予定。伴って、荒井社長は会長に退くが、グループ各社の社長は続投して新社長を側面から支える。